



SSKS

ほっと

「ほっとスペース八王子」ニュース

2017年6月号

157号

定価100円

Facebook: <https://www.facebook.com/hachioji.hotospace>

発郵	EHF電	編
便	IP	集
行	MAUR	人
振	AIR	
所替	LLX話	

〒192-0053 東京都八王子市八幡町一三〇一
 622-6288 19
 042-6200-2786
<http://hotospace802.world.coocan.jp/>
cxbo1672@nifty.ne.jp
 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷三二一〇一七
 ヴェルドゥーラ祖師谷一〇二号室 障害者団体定期刊行物協会

C O N T E N T S

特集 聞こう会&書こう会 菊池春海／キャロル／リネカー／I・H／F・H／山海珍味／ 孫悟麴／UFO／山口咲子／安井成雄／K・U	…2頁
電パチ（電気ショック療法）は廃絶すべし 島村勇一	…7頁
やまゆり園事件関連&勉強会で取り上げた事 安兵衛／孫悟麴	…8頁
寄稿文「今、このクニには、新たなタブーが生じつつある。 「自衛隊批判のタブー」がー。 小西 誠	…13頁
偲ぶ会（平野さん追悼文）	…14頁
お花見に行ってきました 山海珍味／山口咲子／レベッカ／H・H／M・I／リネカー／ キャロル／菊池春海／孫悟麴／安兵衛	…16頁
映画評「アラヤシキの住人たち」 孫悟麴	…17頁
リーフレットリニューアル！	…19頁
原稿募集／次号予告／編集後記	…20頁

特集 「間こう会」 & 「書こう会」

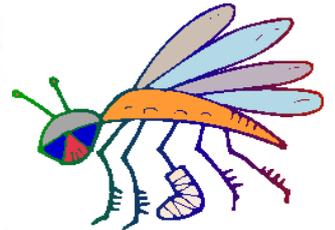
フランツ・カフカ(ハンガリー、1883〜1924)の代表作の一つである「変身(DIE VERWANDLUNG)」は、1912年に執筆され、1915年のドイツ誌「Die Weißen Blätter(グレイ・ヴァイセン・ブレッター)」10月号に掲載された。ドイツ語で書かれ、同年12月に刊行された。その冒頭部分



画像はイメージです。作者フランツ・カフカは、生前、表紙を含めた挿絵に虫の絵を使用しないように要望したとか。

書こう会課題

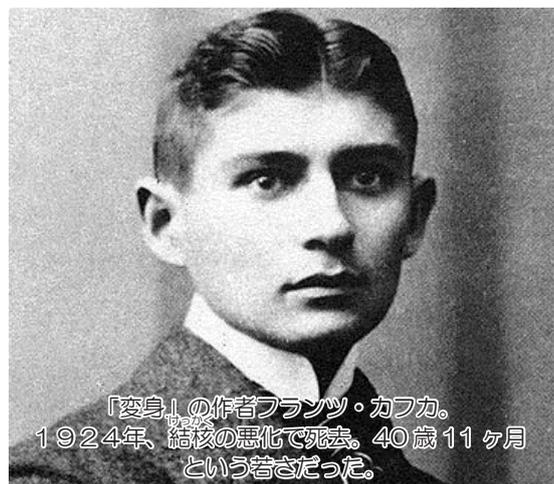
フランツ・カフカ「変身」から



F・カフカ 「変身」



ある朝、グレゴール・ザムザが気がかりな夢から目ざめたとき、自分がベッドの上で一匹の巨大な毒虫に変わってしまったのに気づいた。
彼は甲殻こうかくのように固い背中を下にして横たわり、頭を少し上げると、何本もの弓形のすじにわかれてこんもりと盛り上がった自分の茶色の腹が見えた。腹の盛り上がりの上には、かけぶとんがすっかり落ちそうになつて、まだやつともちこたえていた。
ふだんの大きさに比べると情けないくらいかぼそいたくさんの足が自分の眼の前にしょんぼりと光っていた。
「おれはどうしたのだらう」と、彼は思った。夢ではなかった。自分の部屋、少し小さなすぎるがまともな部屋が、よく知っている四つの壁のあいだにあった。テーブルの上には布地の見本が包みをといて掘げられていたが——ザムザは旅廻りのセールスマンだった——、そのテーブルの上方の壁には写真がかかっている。それは彼がつい



「変身」の作者フランツ・カフカ。1924年、結核の悪化で死去。40歳11ヶ月という若さだった。

さきごろあるグライフ雑誌から切り取り、きれいな金ぶちの額に入れたものだった。写っているのは一人の婦人で、毛皮の帽子と毛皮のえり巻とをつけ、身体をきちんと起こし、肘ひじまですっぽり隠れてしまふ重そうな毛皮のマフを、見る者のほうに向けてかかっていた。
グレゴールの視線はつぎに窓へ向けられた。陰鬱いんうつな天気は——雨だれが窓わくのブリキを打っている音が聞こえた——彼をすっかり憂鬱ゆううつにした。「もう少し眠りつつけて、ばかばかしいことはみんな忘れてしまったら、どうだろう」と、考えたが、全然そうはいかなかった。というのは、彼は右下で眠る習慣だったが、この今の状態ではそういう姿勢を取ることはできない。



いくら力をこめて右下になろうとしても、いつでも仰向け（あおむ）の姿勢にもどってしまうのだ。百回もそれを試み、両眼（りょうがん）を閉じて自分のもそもそ動いているたくさんの脚を見ないでもすむようにしていたが、わき腹にこれまでまだ感じたことのないような軽い鈍痛（とんつう）を感じ始めたときに、やっとそんなことをやるのはやめた。

（青空文庫より引用抜粋）

この冒頭部分を読んだ感想は、以下のとおりである。

菊池春海（きくちはるみ）

宮使いの悲哀を感じました。

キャロル

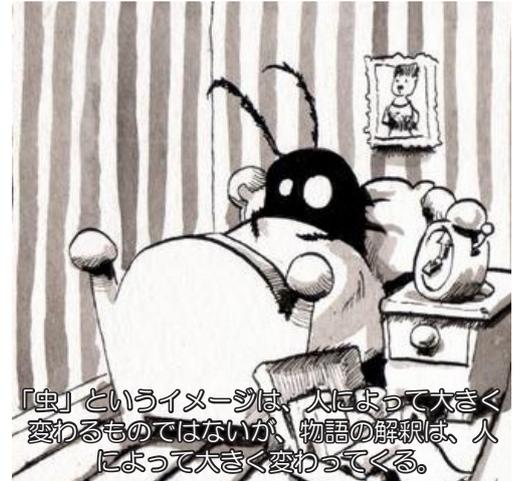
表現のしかたが面白い。

リネカー

自分が途方もない虫に変わっているという事。

H・I

セールスマンは忙しいことを虫のひっくり返った様子とかぶらせているように感じた。



人間ってやつは眠らなくちゃあならない。

山海珍珠

冒頭の一文。世界にカフカを有名にした「変身」のあまりにも有名な一文である。よって強く印象に残った。

「変身」は、その後ザムザ家（と、その周辺）に起きる騒動とマイペースなグレゴールの奇妙な日常が描かれ、妹のグレートに世話を受けていたグレゴールだったが、次第に家族から疎（こ）まれた末にグレゴールは飢えて死ぬ。

ザムザ家は長年住んでいた家を離れ、引っ越したが、そこではグレゴールなど最初からいなかったかのような新しい日常になっていた。

このような不条理さが特徴の「変身」

は、日本の文壇（ぶんだん）でいえば、安部公房（あへこうぼう）に通じるものがある。

ほっとスペース八王子でも、「変身」の冒頭を受けて、続きを書いてみてもらった。

それは以下のとおり。

H・I

主人公が虫となって、家族や勤め先の人間関係を通して、不便なことをコミカルに描き、社会を反映したものに

して、最後はハッピーエンドなものにしたい。

F・H

グレゴール・ザムザは、虫に変身したかった。今の忙しい生活から離れて虫の世界を楽しみ、居留守を使いました。

でもいろいろ思い出して人間に戻りました。

家族の間での心の確執（かくしつ）を描きつつ、「グレゴール・ザムザ」が知らずこの世を去ってゆくさびしい物語が、最後に「変身」自体が夢であったというオチにして、この世界も「一斤の夢」であるとすると内容にしたい。

山海珍珠（さんかいちゆうみ）

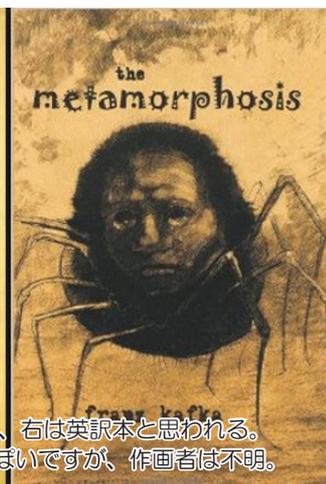
これがもし、グレゴールが昆虫学者であったなら、彼は冷静に目に見える自分の身体のパーツをじっくり眺（なが）めながら、自分がどんな種類の虫なのか、観察し判断しただろう。人は昆虫に論理や感情があるのかどうかかわらない。だがしかしグレゴールは昆虫としての本能が自分の脳内を支配していることに気づかぬままとにかく楽な姿勢をもとめてもがいている。

やがて彼は、自らの頭脳のほかに、体内にいくつかある神経節（しんけいせつ）が脳の働きを補助していることを身体で覚えた。

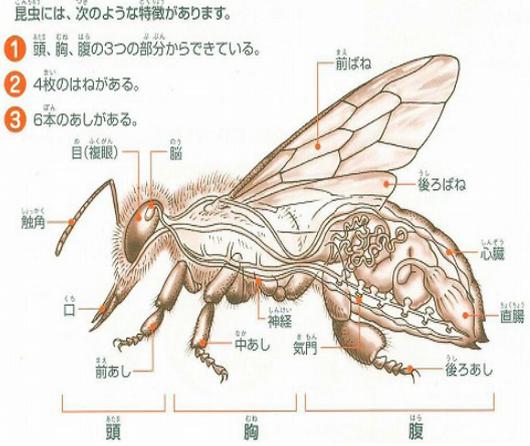
考え事は全身ですればよい。ただグレゴールは、自分の姿を見て驚く家族の

孫悟麵（そんごめん）

「変身」の、左は初版本、右は英訳本と思われる。右の本の表紙はルドンっぽいですが、作画者は不明。



昆虫(おんちゅう)は、全身の神経節(しんけいせつ)で機能を補完する。しかし、昆虫の脳はまた完全に説明されていない。



ことまでは想像できなかった。前足を使って器用にドアを開け、家族にあいさつしようとした。しかし声になって出て来るのは横開きになった丈夫そうな顎(あご)から発する「ギチギチ」というような音だけである。まずグレゴールを起こそうとやってきた母親が驚いた。異変に気付いてほうきを持った父親がやってきた。そして後から二人の妹がやってきたが、毒虫に変身したグレゴールに驚いて逃げてしまった。

小虫のサイズであれば、父親の持っているほうきの一撃であっさり潰されていただろう。しかしグレゴールは違った。父親は、何か固い金属を殴ったような手こたえを感じた。相手にダ

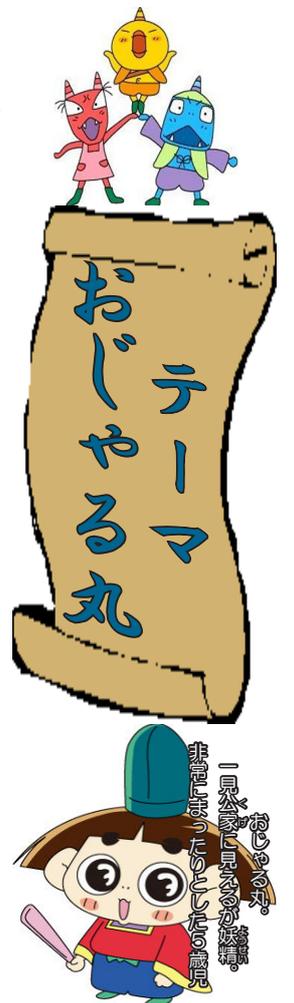
メージになるような手こたえではない。グレゴールはすくさま反撃の姿勢を取った。もうすでに昆虫としての野生の本能が支配しかかっている。

前足で父親につかみかかったが、わずかにそれで持っているほうきに当たった。ほうきは一瞬にして2つにちぎれた。そしてものすごい勢いで建物の外に出た。グレゴールの固い羽根が開いた。飛べる。そしてあっという間にのどかな田園風景の彼方へ消えていった。

「あれは、なんだったんだろう」父親はぼつりとつぶやいた。そして、先っぽのないほうきを持ったまま家の中へ入って行った。家の中では、何事もなかったかのように、家族が各々出かける支度をしている。グレゴールなど、最初から家族にいなかったかのように。おわり。



次の書こう会のテーマは「おじゃる丸」だよ。



2月28日の「書こう会」は、ぐっと

テーマを軽いものにして、NHKアニメ「おじゃる丸」を観た感想になりました。ほっとスペース八王子で撮りためておいた中から、シリーズ17の65話「セミマロン」を選択しました。

キャロル

おじゃる丸は、今、人気があるアニメだと聞いていて初めて観たのですが、時間が短くて観やすいアニメだと思いました。また見たいです。

UFO

おじゃる丸を簡単に説明しますと、犬丸りん氏(故人)原作の10分弱のアニメーション。1998年の初放送以来19年にわたる長期放映になっています。「ハイアンちょう」という不思議な世界からやってきた「マロ」ことおじゃる丸が、「月光町」というところへやって来て、まったくとプリンを食べながら過ごすという日常系(?)アニメです。

短いです、感想をそのまま掲載します。(編集部)

F・H

百人一首や和歌を作るため大坂の地下へ降りついたおじゃる丸とセミマロン。良い人達と出会えよかった。一句をつくりかたが出来た。

リネカー

セミマロンは五・七・五・七・七の和歌を作り、詠んでいった。逢坂(大阪)の歌を詠んでいった。

注1: うすいさちよさん。おじゃる丸の登場人物で、売れない漫画家。
注2: 蝉丸(生没年不詳)が詠んだ(とされる)百人一首第十番の歌。「後撰集」雑一所収、1089番。

ちなみに種丸はこんないメージです。月夜は年回、なかなかに深い感じ。出題も生活感な感じはわかっていないように。種丸の絵も良かったです。



菊池春海

ノーコメント
どうやらこのアニメが合わなかったようです。(編集部)

山口咲子
おじゃる丸とテンポー(注)のやり取りが楽しかった。さちよとセミマロンのやり取りも楽しかった。

注:テンポーは、ほたるのような不思議な生き物。妖精とか、精霊(せいれい)のたぐいらしい。

山海珍味

おじゃる丸を初めて観ました。題名は「セミアロン」でした。「セミアロン」という人物が時空を超えて、和歌を詠むために登場しました。「和歌が詠めない……」と悩むのですが、皆の協力

を得て、「これやこの…」と詠んで姿を消しました。

その後、おじゃる丸が百人一首で「せみまる」の和歌を確認したところ、微妙に違っていた……というのがオチだったと解釈しました。

なんだか不思議な物語でした。

和歌の予備知識や、「ハイアンちゃん」や「月光町」といった世界観、登場人物像や背景、そういったところを加味したうえで観た結果の感想であれば、尚良(なほ)かったのではないかと思えます。無理強いするつもりはありませんが、会員たちの「文章力」を求められる範囲内で上げていければと思えます。「ほっと」が会員の主張発信手段と考えると、尚更(なほ)やっぱり「文章力」を上げたいのです。(編集部)



おじゃる丸7歳(イメージです) 次の「書い会」の話題は「食べ物の話」です。



夏の過ごし方と食べ物の話

3月14日実施の「聞こう会」は「夏の過ごし方」と「食べ物の話」でした。

「書い会」では、その話題をテーマにまとめてもらっています。

人によって、2つの話題を一つの文にまとめて書いている人もいるので、ここでは各人ごとに2つの話題をまとめて掲載します。(編集部)

H・I

夏の過ごし方

皆さんの意見を聞いて、いろいろな過ごし方があるんだなと感じました。

昨年は、気候の変化によって、体調を合わせるのが難しかったので、今年は、前もって少しずつ整えて夏を乗り越えたいです。今年は、花火大会に行きたいです。

食べ物について

皆さんの意見を聞いて、野菜を中心に肉や魚などを摂取(せつしゆ)していきたいです。特に最近、肉が多いので魚をなるべく食べていきたいです。

F・H

夏の過ごし方

みなさんの話を聞いて、一番びっくりしたのは水風呂の話でした。食べ物について

私は、こう見えてもダイエット中。少食です。

菊池春海

テーマは夏の過ごし方

テレビで高校野球を観ている。水風呂に入る。エアコンをかける。余り涼しさを超えるときは、長袖のシャツを着る。

もうひとつのテーマは食事の件、麦飯を炊く、お味噌汁を作る、スーパーに行くと魚や豆腐を食べる。以上、その程度です。





写真は八王子まつりの山車曳きまわし。実は全国でも大規模な祭りの一つだったり。

夏のすこしかた

UFO

私は毎年夏に開催される八王子まつりに出ています。2日間昼と夜に山車を曳ぎます。最終日のフィナーレに情熱をぶつけています。

夏は近所(大横町保健福祉センター)のプールで午前中水中歩行をしに行きます。

食事について

私は毎朝ごはんは納豆と味噌汁、そしてコーヒーを飲みます。夕食は、牛蒡サラダ、ほうれん草の炒め物といんげんの胡麻和え、たまに豚カツ、唐揚げをお昼に食べます。

安井成雄

夏の過ごし方については、みなさんよく考えて、工夫をしているようで感心致しました。私もがんばります。

食べ物については、私のこの一番の食事はカツカレーです。

キャロル

夏のすこし方

アパートにいるときは、浴槽に水を入れ、身体を冷やして、水風呂から出てテレビやCDを聴き、又、暑くなったら水風呂に入り、それを繰り返します。

食べ物について

栄養をとり、野菜をたっぷり食べて健康に気をつけたい。



ボリュームが欲しいが野菜も摂りたい... そんなときには野菜カツカレー!



山口咲子

食べるものに注意したいと思っていますが、このごろお肉を食べたくてしようがありません。

担当の先生も、この頃変わって、お肉を食べても良いと言っていました。

夏が来て、暑くなりますが、その時にならないと具体的にわかりません。

K・U

夏の過ごし方について、一人一人ちがった涼み方がある事、涼しくなる事は、気持ちも落ち着き、寝るときも楽になると思います。私は、寒さの方が苦手なので、冬は嫌いです。

食べ物についても、品物ひとつでいろいろ作り方、食べ方もあり、その人の味とかが出来て良いと思います。わかっているけど、食事の摂り方、食べ物の良し悪しがあるため難しいですね。つい同じもので終わりがちで、偏りがちな食生活になっています。

山海珍味

本日(3月14日)の「聞こう会」は「夏の過ごし方」と「食べものこだわり」でした。

「夏の過ごし方」については、皆さんいかに涼しく、暑さをめげずに夏を乗り切るかということを中心に語っていただきました。やはり自分的には「エコロジカル」に、且つ「エコノミカル」に夏を乗り切るかを語りました。つまり、経済的に過ごし、自然に負荷を与えない生活をするという事でした。

「食べものこだわり」については、やはり野菜中心を心がけるといのが必要であるということです。それぞれ皆さん、自分の身体のことを考えながら、工夫しているなという事を感じました。……おわり。



こんばんは。

ハンナ・アーレントよ。

次のページ

からは別の記事よ。

特別寄稿

電バチ(電気ショック療法)は

廃絶すべし

島村勇一(注)

(自著から追伸)
治療として薬物療法の他、電気ショック療法とか認知行動療法、SS T(社会生活技能訓練)、心理療法とか、あります。

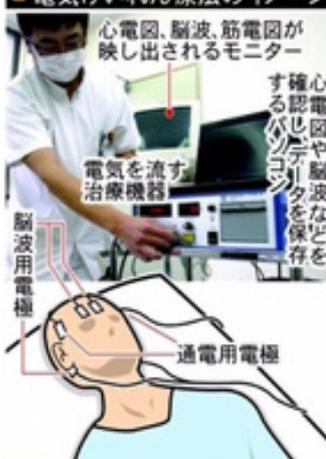
最新の治療で一番新しいのは認知行動療法という治療法です。認知行動療法は大野裕先生が米国の大学で習得してこられた療法です。

平成二十二年に日本でも治療法のひとつとして認められた治療法で、医療保険が使える療法です。他精神療法は私の外来で通院している主治医の先生が実施されているカウンセリング療法です。他SSTは私は世田谷区の家族会のさくら会で平成十五年より平成二十七年まで二〇回受講しまして、とても良い結果をいただいております。心理療法は私は受けたことはありません。

せん。只、やはり薬物療法だけではなく、このようなソフトな治療法と併用しますと良くなる率が格段に高いです。良くなる、改善されることが早いということ。電気ショック療法はそう病の患者さんには効き目があるようですが、他の神経症とか統合失調症とかの症状には効き目がないように思います。私は一二〇回以上かけられましたが効果はなかったと思います。症状を忘れさせるために電気をかけるみたいですが、かけた時は頭の中は何もかも忘れてしまふのですが、一〇日もすると記憶が戻ってきます。よくこらしめのために医者使っているように見受けられます。例えば病棟内でケンカをしたり、病院から脱走して連れ戻された当事者の方、外出してアルコールを買ってきて消灯後チビリチビリ飲んでるところを見つかった入院患者などがかけられています。

この電気ショック治療の好きな医者もいて、その医者がくると、「こわくて、ソワソワして、いつかけられるかと、とても不安でしようがなかったことを良く憶えております。電気ショックは左右のこめかみに器具電極を当てて口にはしたをかまさないように、タオルとかゴム片をかませてスイッチを入れ、五秒程左右のこめかみにコの字になった器具を当てます。そうしますと、かけられている患者さんは目がクルクルとまわり、口からブクブクブクブクあわをふいて、気を失います。その気絶した患者さんをタタミの部屋の大部屋に運んでおおむけにして毛布とかふとんをかけておきます。しばらく一時間く

■電気けいれん療法のイメージ



心電図、脳波、筋電図が映し出されるモニター

電気を流す治療機器

脳波用電極

通電用電極

■電気けいれん療法の流れ

当日は絶食

入室

電極などの取り付け

酸素マスク装着(人工呼吸)

麻酔薬注射

筋弛緩剤注射

通電

意識回復

退室

※週2回のペースで計6回ほど受ける



電気ショック療法の「元祖」ともいえるエシキテル。エシキテルで画像検索かけると、今だにあの二人組がほとんどを占める。困る。

らいでしようか、すると目が覚めて頭がガンガンガンと痛い中、他の皆さんは食事はすんでいて、立ち上がりヨタヨタしながら看護室にいったアルミの盆に入った食事をもらい、眠っていた部屋に運び、冷え切ったご飯をいただくということ。こんなあわれでみじめなことはありません。この現代の進歩して福利厚生、福祉も充実した世の中で昔から行われているこの様な荒唐治は絶対に世界中から廃絶してほしいと切に願います。近代の進んだ治療法、認知行動療法、精神療法、SSTとか、心理療法とかのソフトな治療方法に移行していただきたい。そのほうがよっぽど病気の改善される、治っていく確率は高い



ピカチュウ「すみません、自重します」

と思います。電気療法をしていない病院も少しずつ多くなっていると思いますが、このような残酷な治療はやめてほしい、しないでほしい、入院している病院に、ここは電気治療をやっている病院だと知ると、こわくて、いつかけられるか、いつかけられるかと、そればかりが気になって、病気を治す気持ちはならない。只、電気をいつかけられるか、いつかけられるかということだけが気になって、病気を治すなんて考えられない。



極楽とは、こんなところにあっただすね… (写真は岐阜県明知鉄道の極楽駅)

先生はじめ他の勤務者の皆さんも、思いやり深く、やさしく、慈悲深く私達が治っていくのに一生懸命に頑張ってくださることを思うとありがたく感謝の思いでいっぱいになります。それからしますと電気ショックをする病院は主治医も三分間問診だけで良心的な治してあげなくてはという感じはなくコンピュータを見ながら質問してデータ入力のみでひとつも親身に診て下さっているとは思えません。勤務者の看護師の男性なんかは、何かあったら縛ろうとか、一寸したことでも病気ととられ対応したりする。女性看護師もやさしさとか、慈悲心、慈愛心の不足した、思いやりの対応のない勤務者が多く、これでは治る病気も

治らない、改善されない療養生活で、こんな病院に入院すると治らなく医療費のみかかると、大変なことになっていくと思います。電気ショック治療はするし、陰で隠しことの多い感じを持つこともありました。思いますが、人道に治った真つすくな博愛の精神に則った、倫理観に治った、道徳観に治った、大自然の摂理に則った誠実で真心の通い合う医療、治療を実行してほしいと思います。あそこは良い病院だと人様から評判が良いと言われる病院となられ、外来患者さんが増えてくる質の良い病院であつたら外来患者さんも喜ばれることは当然なことだと思います。



次テーマに移りますね。 どうも、井深八重です。

外来患者も増えることでしょうか。是非ご一考を願いたいと思います。繁盛すると思います。注：島村勇一さんは、「ほっとスペース八王子」の元会員のペンネームです。自費出版の本からの抜粋です。

「やまゆり園事件」について考察

障がい者総合支援法の罪業

二〇〇九年八月に杉並区の某有名な老舗の法人が運営するグループホームで真夏に一七日間放置死させられたMr.ワダックさんのことは忘れられませんが、

障がい者自立支援法(現障がい者総合支援法)が制定されて直後の出来事でした。杉並区でも有数の大手の法人

が運営するグループホームでほっとスペース八王子の仲間が放置死させられました。その法人は東京都において精神障害者の共同作業所を運営する草分け的存在でした。手弁当で運営する時代もあつたと聞いています。

しかし、そのような共同作業所が障がい者総合支援法の制定によって、法人が運営するグループホームにおいて利用者を放置死させてしまう現実をど



在りし日のワダックさん。(2001年望年会)
マジックのシーンを探したのですが、
なかなか見つからなくて...
ご遺稿もありますので、
いずれ再掲したいと思います。

の人たちは自分が生きていることを自覚できているのか」という石原都知事の障害者に対する発言に対して、抗議の嵐が巻き起こる健全さがありました。

しかし、安倍自公政権が誕生して以来、在日外国人に対して、在日朝鮮人に対して「朝鮮人殺せ」などのいわゆるヘイトスピーチがまかり通る世の中になってしまいました。「障害者を殺せ」等のナチスの社会的弱者への差別的な考え方が堂々とまかり通る社会に変貌している現実は隠しようもありません。

杉並区のグループホームにおける虐待死はホンの始まりに過ぎなかったようです。

安倍自公政権は共謀罪の再々再度の上程とセットにして、精神保健福祉法体系を「精神障害者」の社会への自立支援ではなく、「精神障害者」＝犯罪者という名の下に治安対策へと舵きりしようとする改悪を閣議決定しました。

これで、世の中が「精神病患者を殺せ!!」というヘイトスピーチで覆われ、僕たちが現在よりもっともっと社会の隅に追いやられるのを黙って見過ごしているわけには行きません。



「小泉内閣以前の日本社会では、この

学習会から

神戸連続児童殺傷事件

By 孫悟麴

第1の事件

1997年5月27日早朝、神戸市須磨区の中学校正門に、切断された男児の頭部が放置されているのを通行人が発見し、警察に通報。5月24日から行方不明となっていた近隣マンションに住む11歳の男児のものとなった。

耳まで切り裂かれた被害者の口には、「酒鬼薔薇聖斗」名の犯行声明文が挟まれており、その残酷さと特異さからマスメディアを通じて全国に報道された。6月4日に犯人から第二の犯行声明文が神戸新聞社に郵送され、報道はさらに過熱。

警察の捜査により、6月28日に犯人逮捕。マスコミが報じていた推定犯人像（がっちり体型の30〜40代）と異なり、犯人が14歳の中学生であったことが判明し、連続殺傷事件であったことが判明した。

第2の事件

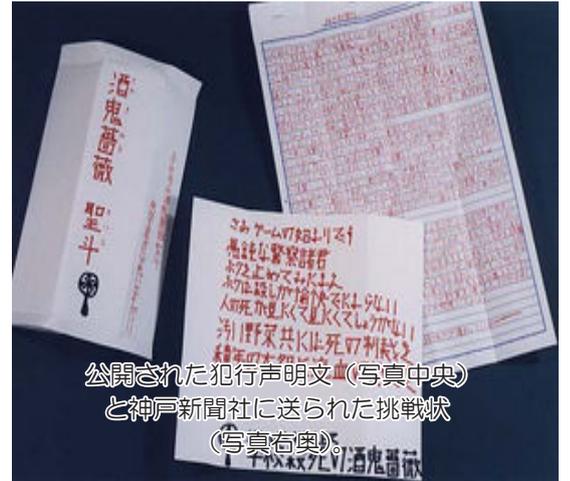
3月16日午後0時25分、神戸市須磨区竜が台の公園で、付近にいた小学4年生の女兒に手を洗える場所はないかとたずね、学校に案内させた後、「お礼を言いたいのでこっちを向いて下さい」(少年の日記より)といひ、振り返った女兒を八角げんのう(金槌の一種)で殴りつけ逃走した。女兒は病院に運ばれたが、3月23日に脳挫傷で死亡した。さらに、午後0時35分ごろ、別の小学生3年生の女兒の腹部を刃渡り13センチの小刀で刺して2週間の怪我を負わせた。ナイフの刃先は胃を貫通して、背中の静脈の一手手前で止まっていた。仮に静脈まで達していたら、救命は不可能だったという。また、手術の時に、1.8リットルの輸血を要した。



すべてはここに置かれた男児の首から始まった。

犯行声明そして

この事件の特徴は、被害者である男児の首を切断して中学校の校門に晒すという猟奇性、晒した男児の首の口に犯行声明を啜えさせ、さらに後日、マスコミ(神戸新聞社)に挑戦状めいた物を送り付けたこと、当初犯人像が錯綜し、いろいろな情報飛び交い、連日ワイドショーはこの事件を取り上げ、1月近くを要したが、マスコミはこの事件が連続殺傷事件であることまではつかんでいた。



公開された犯行声明文(写真中央)と神戸新聞社に送られた挑戦状(写真右奥)。

1997年6月26日、警察は神戸市須磨区に住む男性に任意同行を求めたところ犯行を認めため逮捕、日本じゅうが容疑者は中2の少年であることに驚愕した。一般に知られている当時の名前はS・A(以下少年)。

報道では、動機について、阪神・淡路大震災によって少年の祖母が亡くなり、空虚になった心を埋めるために及んだとも言われていたが、8月に行われた精神鑑定によると、動機は性的サディズムに基づく快樂殺人だと結論付けられた。(注1) 審判では、少年に責任能力があると判断されたが、反社会的パーソナリティ障害相当の行為障害(未成年はこう定義される)

逮捕その後

家庭裁判所による非公開の少年審判の結果、医療少年院送致(退院時期について定めない(注2))が決定した。2004年に少年は東北少年院を仮退院、2005年に本退院が許可された。少年の近況であるが、「週刊文春」などのメディアによると、少年は現在東京都内に住んでいて、いくつか職についたものの長続きせず(一説にはすぐに身元が割れていられなくなった)ことだが、少年が就職したのはいずれも「協力企業(善意で元犯罪者などを積極的に雇用する企業)」だったため、本人の資質の問題ではとの説もあり、支援者による援助と就職を繰り返しているらしい。戸籍上の名前も変えて、現在は働いているという。

また、2015年にはブログとメルマガを発行したが、現在は閉鎖し、メルマガの発行も止めている。同じく2015年には著書「絶歌」を出版するも、被害者遺族を中心に、大きな非難を浴びている。

また、2015年にはブログとメルマガを発行したが、現在は閉鎖し、メルマガの発行も止めている。同じく2015年には著書「絶歌」を出版するも、被害者遺族を中心に、大きな非難を浴びている。

事件の背景としては、阪神・淡路大震災や、オウム真理教による一連の事件があり、急にクローズアップされた話題に、「ノストラダムスの大予言」があり、終末思想が社会の空気に入り込んできた部分もあった。終末思想を盛り込んだ「新世紀エヴァンゲリオン」(注3)がヒットしたり、神戸児童連続殺傷事件も、14歳の犯人というインパクトはあったものの、一連の終末思想のひとつの事件として収束しつつあった。が、社会はそうはならなかった。



元少年の手記。後述するが、この本はあまりお勧めできない。



結局事件と終末思想との関連は最後までわからなかった。「14歳」というキーワードの象徴だったエヴァンゲリオンも今年で20年。

1999年に京都で発生した21歳の青年による児童殺害事件では、現場に「てるくはのる」という謎のメッセージを残し、模倣犯かと騒がれたし（のちに「てるくはのる」の意味は、ある文芸作品の行末の文字を並べただけと判明したが、理由や動機については容疑者が自殺してしまったため、判らずじまいである）、1998年の栃木女教師刺殺事件をはじめ、2000年には「人を殺す経験をしてみたかった」豊川主婦刺殺事件、2ちゃんねるに「ヒヒヒヒ」という書き込み（犯行予告）をしたとされる西鉄バスジャック事件（通称ネオ麦茶事件）、岡山金属バット母親殺害事件、個室ビデオ店爆破事件と続き、2000年の一連の事件は、「キル17歳」（神戸連続児童殺害事件

の犯人と同年代）と言われ、他に主な少年犯罪として、15歳の少年による大分一家6人殺害事件、山地悠紀夫（当時16歳）元死刑囚による実母殺害事件などがある。こうした少年犯罪によって、法務省は少年法の改正に踏み切り、2000年11月28日改正少年法成立、2001年同法施行となった。この改正によ、被害者関係者による事件情報請求、加害者からの意見聴取、審判結果、仮退院、仮出所などの情報を得ることが出来るようになった。また、家庭裁判所から検察への送致決定の判断（いわゆる逆送（注4））、刑事罰の引き下げ（14歳から）、死刑については従来通り18歳以上（犯行時）、16歳未満の懲役・禁錮受刑者は少年院で刑を受ける、18歳未満で死刑に相当する罪については無期懲役、無期懲役に相当する罪については5年から10年の不定期刑を以て替える。（2014年の改正により、無期懲役相当の刑は、20年以内の有期懲役、不定期刑の期間も10〜15年に改められた）無期懲役を受けた者の仮釈放資格期間は従来の7年から10年に延長。ちなみに2014年に無期懲役の仮釈放申請可期間が10年から30年に増えたが、少年法についてはこの限りではない。あとは、少年審判への検察

官の同席などが盛り込まれ、一般に触法少年に厳しい改正となっている。「やまゆり園事件」との関連「やまゆり園事件」との関連神戸連続児童殺害事件は、社会に与えた影響は非常に大きいものであったが、「やまゆり園事件」とどう関連付けられるか、加害者である元少年には全能感や選民思想、優生思想的なものがあったのかどうか、それを知るために、元少年の著書である「絶歌」を買ってみた。感想としては、過度の修飾語が多いが読み易いという印象。犯行そのものの詳細をここで語ることはしなかったが、犯行前の心理状態の変遷、犯行後の経緯をつぶさに書き記している。審判や弁護士とのやりとりなどといったことは、口外してはい



もしも、「中二病（厨二病）」という言葉の解りやすく説明できる人がいたら、是非教えてほしい。



けないのか、本人が興味なかったのか、ほとんど触れられていない。ただ、逮捕後精神鑑定に移り、精神鑑定と対峙したときのやり取りは、かなり精神鑑定という行為自体への敵意が感じられた。医療少年院内のこと、少年院のことについては、あまり触れていなかった。少年院を出所した後、社会復帰後の生活がメインの内容である。この書では、彼なりの反省や悔悟、苦しみなどが書かれているのだが、これを信じていいのか、筆者（孫悟麴）には判断できない。また、自分や他人、またいろんな人物の考察もしているが、彼独自の視点がかがえる。彼はあくまで他人とは違うところがある。犯行前から自覚していたふしがある。

本書を額面通りに受け取るなら、彼他人を受け入れる余地はなく、今後もしやうって生きていくほかはないだろう。しかし、彼が再犯を起こす可能性は低いような気がする。本書の主張通りなら。一方で、この「絶歌」という本は、「元少年A」自身の壮大な言い訳、ハードカバー単行本まるまる一冊分を使った壮大な言い訳であるような気にもさせられる。読後感は良くなく、他人に勧められるような本でもない。



少年院外観。刑務所や医療観察施設に比べるとソフトな感じ。



元少年Aよ。余計なお世話だ。

手玉。ガバラだ。

見禁的な聖者ほど、その行為に快楽を見出す異常者」と見做す彼独特の人物観を持っている。

鑑別所や医療少年院、保護観察官や退院後世話になった方々に対して感謝の念はあるようだが、基本的に他者に対するリスパクトといったものは感じられなかった。また、彼は他者と比べたときの自分に対する特別感を強く持っている。「絶歌」を読んで強く感じた。そう考えると「絶歌」をよって多少は「やまゆり園事件」の容疑者との関連性はあるのかもしれない。

最後に、この神戸連続児童殺傷事件が起きてからもう20年になろうとしているが、筆者には、ひいては戦後の刑事事件史上において、大きなインパクトを与えた事件であるというのはいない。(ア)



家庭裁判所法廷内イメージ。画像は前橋家裁です。18歳未満の裁判は原則非公開。

注1：性的サディズムによる快楽殺人者は、捕まるまで連続殺人を繰り返すシリアルキラーが多く、例として、テッド・バンディ(アメリカ)、アンドレイ・チカチロ(ウクライナ)、ペーター・キルテン(ドイツ)、ペドロ・ロペス(コロンビア)などがいる。
注2：あくまで推測だが、成人の刑罰に準ずると死刑に相当し、18歳未満は死刑にできないので無期懲役だが、パーソナリティ異常などを考慮されての医療少年院行きという処分になったと思われる。
注3：「新世紀エヴァンゲリオン」は、1995年に初放送されたアニメーション。「セカンド・インパクト」という大災厄から15年後、「使徒」と呼



最高裁判所。これを以て、次の記事に移ります。

ばれる人類の敵から守るために選ばれた14歳の少年たちが「エヴァ」と呼ばれる巨大人間に乗って戦うというストーリー。当初、物語の難解さからヒットしなかったが、再放送でブレイクした。「14歳」は当時の世相のキーワードにもなった。
注4：従来の少年法では、18歳未満の触法少年についてはすべて家庭裁判所で処分が決定していたが、2000年の改正では、刑事処分相当と判断された18歳未満(12歳以上)の触法少年は、検察に送致され、取り調べを受ける。さらに、起訴されれば、非公開での公判を受けることになる。処分、刑罰については前述のとおり。

特別寄稿2

今、このクニには、新たなタブーが生じつつある。「自衛隊批判のタブー」が。

元自衛官・小西 誠

*かつて、この国には「天皇批判のタブー」があった! だが今、天皇批判以上に凄まじいのは、「自衛隊批判」のタブーなのだ!

*率直に言って、この自衛隊批判のタブー化は、マスメディアだけではない。これは、野党や左翼党派から、反戦・平和勢力、市民団体、そして知識人などにまで及んでいる。それも、天皇制タブーのように「暴力への恐怖」からではない。まさしく「自粛」そのものだ(あるいは、自衛隊の「現実的容認」が、その「全ての容認」へと行き着いている)。

与那国島・宮古島・石垣島・奄美大島の人々が、その急速に襲いかかる自

衛隊配備の態勢に対して、声を大にして訴え始めてから2年以上もたつ。だが、この現地から「島を戦場にしないで!」「島々を標的にするな」という声は、未だにこのクニの一部の人々のところにしか届いていない! この理由は、言うまでもない。自衛隊批判のタブー化だ(「中国脅威論」も含む)。

2016年3月、与那国駐屯地が開設され、同時に宮古島・奄美大島での自衛隊の新基地建設が着工態勢に入った、また、石垣島でも前倒しでの自衛隊配備が決定。そして沖縄本島でも、ここ1年で1千人以上の新たな自衛隊増強が始まった(南西重視戦略下の、佐世保での水陸機動団(海兵隊)+オスプレイ17機+水陸両用車(AAV7)52両の増強態勢づくりも始まる)。

この自衛隊の南西諸島への新配備の目的は、琉球列島孤Ⅱ第1列島線の島々へミサイル基地(と歩兵部隊)を

張り巡らし、海と空から中国軍を東シナ海に封じ込める態勢だ。いわゆる海峡阻止・海峡封鎖作戦であり、アメリカのイラク戦後のオフショア・コントロール戦略に基づいている(米軍では、これを琉球列島線に「万里の長城」を築くと称する)。

この日米軍が企図する「海峡封鎖作戦Ⅱ島嶼防衛戦」とは、先島諸島を戦場とする、海洋限定戦争Ⅱ東シナ海戦争として想定されている。しかも、日米ガイドラインによれば、「自衛隊を主力」とし「米軍」が支援する作戦・戦闘だ(だから、自衛隊への正面からの批判となる)。

この日米軍の作戦を、「非現実的」「荒唐無稽」として批判するのはたやすい。



F-22ラプター。日本は本当はこっちが欲しいのかな?



日中、米中経済の相互依存を考えれば「戦争などない」とするのが常識的だ。だが、だからこそ日米の制服組は、「島嶼防衛戦」「先島戦争」「海洋限定戦争」として、この戦争態勢を企図しているのだ。

自衛隊の先島諸島等への配備完了は「国境線への軍事力投入」として中国の激しい反応を引き起こすだろうし、引き起こし始めている。これは「尖閣」以上の一触即発的事態を招く。というのは、日中間には緊急時、偶発的衝突を防ぐ「海空連絡メカニズム」さえ結ばれていない(米中は2014年に締結)

おそらく、この先島戦争の第1回戦は、相互に数十人の戦死者で終わる。しかし、戦争がこれでは終わることはない。第2回戦・第3回戦と続き、最終的には米軍が本格的に参戦する「通常型太平洋戦争」にまで発展する。一事態は、今こういう段階に至っている(戦争法制定の真の目的である)。

しのぶ会から

「しのぶ会」

2月24日、「ほっとスペース八王子」内にて、しのぶ会を行いました。

これまで、「ほっとスペース八王子」で、現役の会員、元会員問わず誰かが亡くなったとき、その都度故人を追悼することはありましたが、2015年から、「ほっとスペース八王子」関連で亡くなった人を把握しうるだけ全員を追悼する行事を行うことにしました。

例年ですと、9〜11月に行うのですが、今年度は、2月になってしまいました。今年度のしのぶ会は、故人の映っているVTRを見ながら思い出話をするというスタイルで行いました。次の文は、平野博之さんの追悼文です。厳密には、平野さんは「ほっとスペース八王子」の正会員ではなく、前身の「赤堀さんと共に闘う会」にいた人です。入院していただければ、「ほっとスペース八王子」にいたかもしれなかった人

です。48歳という、余りにも早い死でした。
(編集部)

平野博之さん安らかに

——「精神障害者」差別の

現実を許さない——

八王子・赤堀さんと共に闘う会(注1)の創成時一九七六年からの会員であった平野さんが六月二七日五日市町(注2)の日の出ヶ岡病院といういわゆる「姥捨て山」病院で亡くなりました。享年四八歳です。

彼は「精神障害者」(軽い「精神薄弱」)だということから兄弟から見放され、遺体や遺骨の引き取り手がいないのです。病院も最初は立川市内の総合病院に入院していたのですが、福祉事務所は金のかからない奥多摩の五日市線の終点五日市駅(注3)から1時間の一本しか動いていないバスで三〇分のいわゆる「姥捨て山」病院の男女同室の大部屋に転院させられました。若いのに「精神障害者」だということだけで、

その老人病院の痴呆症(注4)老人病棟に入れられていました。

駒木野病院から退院し、仕事も持続し、アパートを借りて自活生活も維持できたいわば「社会復帰」したけれど、いったん病気がしたとたん家族の協力がなければ、「精神障害者」の現実はかれのように厳しいのです。

病院から直送され、火葬場の安置室においてあった平野さんの遺体を見てみると、何と眼はカッと見開き、口元までタンが詰まった喉が見える状態でした。多分これだとタンによる窒息死ではないかと思われました。

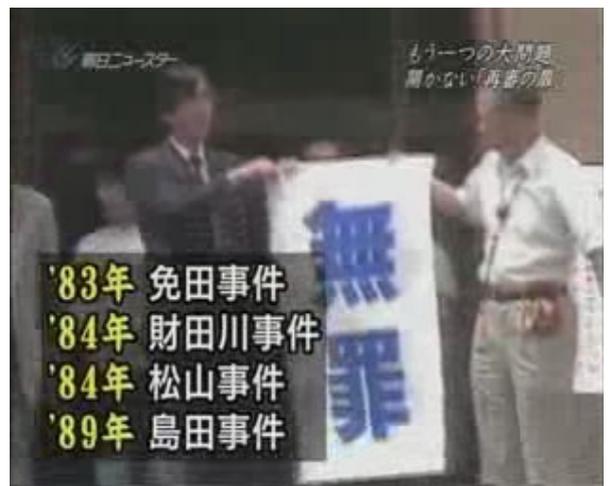
生活保護者の葬祭とは。日本国憲法で保障された「最低限の文化的生活」とはこんなものなのです。福祉事務所

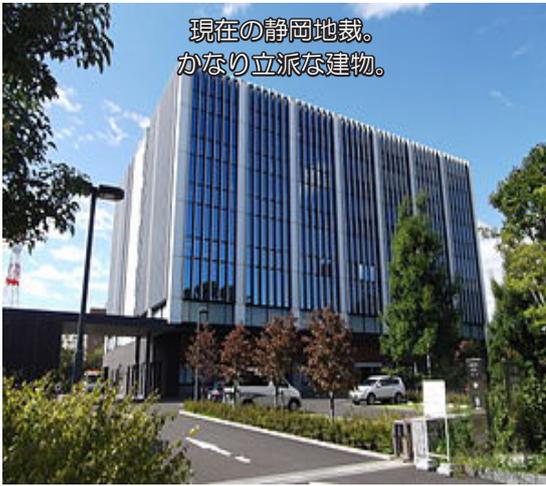


平野さんが亡くなって22年、
終焉の地日の出ヶ岡病院はその佇まいを
あまり変えていない...

から支給される葬祭費は十四万九千円以内で、通夜はもちろん告別式もまかなえません。兄弟から見放された遺体はそのまま家族、親類、知人などの知らない所でお棺に入れられ、病院から火葬場まで直送され、読経もなく、火葬されることでした。

八王子・赤堀さんと共に闘う会と私たちは、平野さんのために集めた基金で彼の宗派の坊主を頼んで、読経してもらい、火葬にふしました。葬儀を行うおともしなかった兄夫婦はしぶしぶ駆けつけ、私たちと一緒に平野さんを送りました。しかし、平野さんの遺骨を引き取るうともせず、また祖先や両親の入っている郷里の墓に入れてくれません。私たちは生前の平野さんを





知るすべての人にできる範囲で連絡し、火葬場へ来てくれること、来られない方は弔電を打ってもらうことをお願いしました。その結果、兄夫婦にも「こんなに多くの方々から仲良くしてもらえたのですね」と言ってもらえたものの、平野さんは無縁仏となる運命なのです。

人の「生」はその人の「死にざま」に示される、と言われますが、これが「精神障害者」の生と死なのです。しかし、平野さんの「生」とは、「八王子・赤堀さんと共に闘う会（注5）」から投稿された追悼文にも示されているように、彼は最後まで持ち前の明るさと心優しさを忘れず、病院でも人気者でした。そして、私たちはかれが憎んでいた、そして死んだあとまで受けた「精

神障害者」差別を必ずなくすために共にたたかきましょう。二度と平野さんのような目に私たちの仲間を合わせないようにするために。

【投稿】平野博之氏の死を悼む

八王子・赤堀さんと共に闘う会

一九九五年六月二七日、平野博之氏が西多摩郡五日市町の日ノ出ヶ丘病院で亡くなった。享年四八歳であった。

「精神障害者」であることを理由に、静岡県島田市で起きた幼女誘拐殺人事件の犯人にでっち上げられた赤堀政夫氏の救援活動を平野氏は、私たちと共に先頭でたたかった。

平野氏は大田区の町の鉄工所で「精神障害者」差別ゆえの低賃金にもかかわらず、黙々と働いてた。日頃から無口であり自分から話をしようとはしなかったが、心底から性格の優しい人であった。私たちが彼のアパートに遊びに行くと、近くの食堂に連れて行って、心からもてなしてくれたものでした。「精神障害者」仲間にはとても面倒見がよく、誰からも慕われていました。八王子・赤堀さんと共に闘う会の事務所で行った食事会などでは、小柳ルミ子の「私の城下町」を好んで歌い、一度マイクを握ったら離さないほ



鉄工所（画像はイメージです）

どの歌好きであった。病に倒れた後も、寝たつきりになりながらも、決してあきらめず、「また元気に働きたい」と常々口にしてた。彼は、病とたた

かいながら、最後まで闘志を失わず、生涯をまっとうしたのである。面会に行った時、彼は心からうれしそうに笑顔をつくっていたのが印象に残る。いまは平野氏の冥福を心から祈る。彼の悔しさ、悲しみ、怒りを私たちのものとして必ずや「精神障害者」解放―差別社会変革をかちとることを心から誓うものである。

注1…赤堀さんと共に闘う会は、島田事件（1954年に静岡県島田市で発生した誘拐殺人事件）の被疑者とされた赤堀政夫さんが冤罪で死刑確定から

再審を経て、1989年に無罪釈放をかちとるまでの期間中、1976年から無罪判決の1989年まで有志で活動し、赤堀さんを支援した。

注2…日の出ヶ丘病院は、西多摩郡日の出町にある精神科、内科、ホスピス併設の病院で、設立時から日の出町にあり、五日市町（現あきる野市）は誤記だが、そのまま掲載した。

注3…現在の五日市線終点武蔵五日市駅。

注4…現在でいう認知症だが、当時の記事のまま掲載した。前段の記述「精神薄弱」も現在では使われない。

注5…「ほっとスペース八王子」設立後も、「八王子・赤堀さんと共に闘う会」は存続していたが、1995年秋に合併。なお、「赤堀さんと共に闘う会」は全国的に展開され、それぞれ独立して活動していたが、相互間の交流も積極的であった。

（以上、1995年7月15日発行の「ほっと」第11号から文章をそのまま転載しました。今後も故人の遺稿、追悼文記事などを随時掲載する予定です。編集部）





お花見に

行ってきた

4月7日(金)、富士森公園へお花見に行きました。昨年は、立川市の昭和記念公園へ花見へ行ったので、1年ぶりの富士森公園だったのですが：

お花見の感想を簡単にまとめました。八王子市民の花見のメッカが、現在どうなっているかをお察しいただけると幸いです。(編集部)

山海珍珠

今日は富士森公園、桜がスカスカでした。寂しかったですね。天気は良かったんですが、桜が寂しくて、残念でした。

レベッカ

当日は、寝坊してしまったのですが、時間に間に合って良かったです。みんなで行ったのが楽しくて、良かったです。

お弁当作りは、楽しかったです。久しぶりのおにぎりを作ったのですが、塩を手付け忘れたりしました。次回は、富士森公園以外の場所へ行く

なら、もう少し早く8:00くらいに来て準備すればいいと思います。

山口咲子

桜は満開でちょうどいい時期に行けたと思います。みんなで行けて楽しかったです。

昼食のお弁当をみんなで作って、お花見をしながら食べて、美味しかったです。

次回は、富士森公園から変更になるかもしれませんが、お弁当作りの問題とか、難しいですね。

H・H

暖かくてちょうどいい陽気でした。気持ちよくお花見できたかといえば、もう少し、桜があればと思いました。

M・I

時期的にもちょうどよく、気持ちのいい陽気だったので、富士森公園の桜が少なくなったと聞いて、残念に思いました。

リネカー

当日は天気も良くて、気温も少しだけ暑く、少し疲れました。

自分で握ったおにぎりは、とても美味しかったです。

みんなも楽しんでいたので、よかったです。次回も参加したいと思いました。

ただ、富士森公園以外で行う場合、早く来てみんなでお弁当を作らないと思います。

UFO

今年のお花見は、共同で幹事をやりました。近くの富士森公園とはいえず、富士森体育館の人に桜の状態を訊いたり、当日の天気をいろんな人に訊いたりして、当日の確認をしました。みんな



なのでおにぎりをつくって富士森公園に持って行って食べました。とてもおいしかったです。ただ、富士森公園に行く、桜の木がずいぶん減っていて、自分のせいではないとはいえ、なかなか申し訳ないような気分になりました。

次回は、富士森公園以外のところに行くとするば、少し早起きして、やっぱりみんなでお弁当を作って行けばいいと思います。

キャロル

気候もちょうどよくて、気持ちのいいお花見になりました。昼食のおにぎりは、初めて作ったのですが、形は良くなかったのですが、おいしかったです。次回は、お弁当を作る人、持参する人、買う人とそれぞれいてもいいと思います。



2012年はこんな感じで...

慣れないおにぎり作りで大変でした。あまり形がよくなく、途中で崩れて来たのでみんなが昼食を食べる時間の前に食べてしまいました。次回はできれば自分では作りたくないです。できる人に作ってもらおうか、おかずだけで我慢するか、あるいは買ったかします。お花見の場所が遠ければ、お弁当を買うのでいいかと思えます。

菊池春海

孫悟麴

1年ぶりの富士森公園は、すっかり様変わりしていました。特に、今まで定番の場所になっていたオブジェの周りの生垣もすっかりなくなっていました、わずかな土の部分以外は、全部ブロックで舗装されてしまいました。沿道を占めていた屋台も、南側の坂道にみんな移動してしまい、一抹の淋しさを感じ、思い出の場所を失った感じがしました。



2016年のお花見は立川の昭和記念公園でした。

昔の友達と、夜桜を観ながら飲んだり食べたりといった思い出も、もう思い出でしかありません。

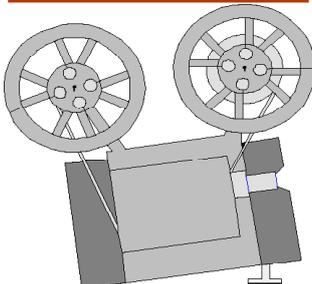
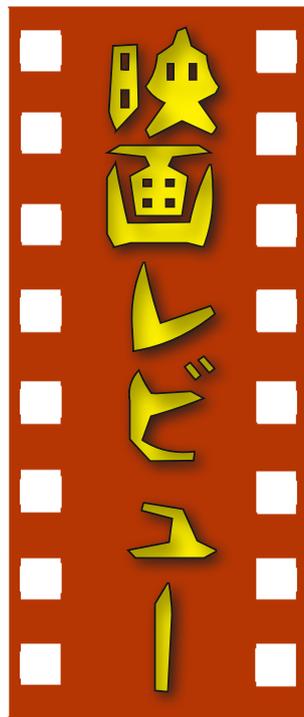
確かに、富士森公園はきれいですっきりとした感じにはなりました。それに、永遠に不変なものもないということばかりです。ですが、もうちょっと何とかならなかったのでしょうか。植生を活かした整備方法があったのではないかという気がします。いずれにせよ、あらためて二度と得られないもの大切さを感じました。

昼食は、前年に引き続きお弁当を作った食べたのですが、実は自分、あまりおにぎりは得意ではありません。寿司は握ったことがあるのですが。

安兵衛

別に幹事の責任という事ではなく、富士森公園の木が伐採されてなくなっただけの話です。

桜の木がすっかり少なくなって残念でした。あの状態だと次回は別の場所を考える必要があります。近くにいい場所があれば、今回のような段取りで行けるとは思います。ちょっと遠い場所だったとしても、早く来てみんなでお弁当を作るのがいいのではないかと思います。



アラヤシキの住人たち

孫悟麴

3月18日、八王子クリエイティブホールで、映画、アラヤシキの住人たちという映画の上映会を行った。終了後、明治大講師、堀越善晴氏と八障連代表、杉浦貢氏との対談。堀越氏は、知る人ぞ知るとい感じの人で、全言ながら明治大学で英語講師をしているほか、講演活動などもしているらしい。アラヤシキについて簡単に説明する。アラヤシキは、正式には「真木共

働学舎」といい、長野県北安曇郡小谷村千国乙真木集落の一角にあった旧家を利用し、農業を中心とした共同生活を行う。「共働学舎」は、教育者宮嶋眞一郎氏が1976年に設立し、最初につくられたのが同じく長野県北安曇郡小谷村立屋集落の「立屋共働学舎」である。現在、全国に5か所あり、それぞれ「真木共働学舎」と同じような共同生活をしている。アラヤシキという言葉だが、「荒(新)屋敷」をもっているかもしれないし、仏教用語の「阿頼耶識(いわゆる第八感と説明する)と適切か」ともかけているかもしれない



い。
映画ではその通称「アラヤシキ」での共同生活1年間を淡々と綴ったものである。笑いあり、涙あり、ドタバタありのダイナミックな展開…という事にもならず、途中飼っている山羊が産したり、共同生活をしてきた男女が結婚したり、一度出て行った仲間がひょっこり帰ってきたりといった出来事はあるが、基本的には正月やクリスマスを祝い、どこにでもある家庭の風景のようでもある。

「アラヤシキ」の住人たちは、健康者も居れば、障がい者もいる。その立場は対等で、みんながスタッフである。それぞれのメンバーの能力に応じた作業を行い、自然の中でほぼ自給自足の



映画を見てから、共働学舎について少し調べてみた。基本理念として、「競争社会よりも協力社会を」というものである。「共働学舎」は、東京の東久留米市にあるのをのそば、北海道に2カ所、長野に2カ所である。農業をしたり、あるいはクラフトワークなどの生産活動は、多くの障がい者作業所で行っていることもあるし、とりわけ農業は、障がい者の授産作業という側面だけでなく、作業療法としても現在注目している業種である。八王子でも、農業に参入したいという事業所はたくさんある。ただちょっと気になるのは、その「共働学舎」の位置である。

東京都東久留米市の住宅街にある南沢共働学舎をのそば、他の共働学舎は、人里離れた場所にある。少人数（ここでは多くても2〜30人まで）で共同生活をしながらほぼ自給自足の農業生活をするには、それは確かにいい環境かもしれない。が、さまざまな事情をかかえた人や障がい者がどう地域社会に関わっていくかということを考える、都市郊外にある農地でもいいのではないかと考えてしまう。農業は、今でも都心で行っている人もいる。長野県小谷村は、創立者宮嶋眞一郎氏の故郷ということもあったのだろうが、「たまたま」人里離れた地を選んだのか、共同生活するのに空気のいい環境の地を選び抜いたのか、或いは敢えて「隔離」を選択したのか、そこが気になる。

何度も言及しているが、共働学舎は、さまざまな事情をかかえた人たちが共同生活をしている。「さまざまな事情」はさまざまな事情で、少数でのんびりとした環境で癒されるものなのかもしれないし、逆に多くの人との触れ合いによって問題が解決する場合もある。あるいは、問題の解決よりも、ただこういうのんびりとした場所で過ごしたいという人もいると思われる。語弊はあるが、こういう意味では、「敢



えて「隔離」を選択するのも手かもしれない。おそらくこの場合の「隔離」は、「孤立」を意味しないだろう。

精神科病院は、街中でも住宅街の中にあっても、その多くは隔離された空間であるし、入院している者の多くは孤立している。（刑事収容施設においても同様のことがいえるが、別の機会に言及する）だが、共働学舎は、隔離されてはいるが、孤立はしていない。住宅街で、人口密集地域で、医療福祉活動をしている人たちがいる。人里離れた場所、自給自足の共同生活を営む人たちがいる。あとは、それらを繋ぐなにかがあればいいかもしれない。とにかくそういったことを考えさせ

「ほっとスペース八王子」 の新リーフレットが完成

「ほっとスペース八王子」のリーフレットを、約8年ぶりに改訂しました。現在、印刷して関係各所に送付しているところです。

以前のリーフレットは、「このリラクゼーション」的な場所という意味合いの内容でしたが、この度改訂されたリーフレットは、精神障がい者の自立、差別からの解放、「障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）」の撤廃といった運動もふくめた主張がなされているのが特徴です。

以下に今回の新リーフレットを紹介します。なお、今号の付録として、このリーフレットを併せてお送りします。ぜひご覧いただけると幸いです。

リーフレットの著作権は「ほっとスペース八王子」に帰属しますが、当所の宣伝になるようでしたら、転載、印刷、配布もいかなと思います（編集部のご感想として）。

今後、「ほっとスペース八王子」および当機関紙「ほっと」をこひいきよろしくお願いたします。（編集部）

■心の病は現代病です

現代はまさにストレス社会です。職場におけるノルマや対人関係、学校における競争や人間関係、家庭における親子関係…このような社会では誰もが心の病になっても不思議ではありません。

■差別と偏見

しかし、社会の心の病に対する理解はまだ不十分です。一部のマスコミなどは「精神病患者」への予断と偏見をおおっています。何より、本人のあせり、将来への不安、悩みはつきません。

■「ほっと」には仲間がいます

そんな時、ほっとスペース八王子には、様々な心の病をもつ仲間がいます。メンバーの悩みはもちろん、生活保護の申請や障害年金、自己破産申請など仲間同士の生活と権利を守ることに力をいれて取り組んでいます。

■ほっとスペース八王子とは・・・

「ほっとスペース八王子」は、自らも心の病で入院したりした経験のある「精神病患者」が中心となって作った「精神病患者」のための組織です。

作業所として認可された現在でも、職員と会員（通所メンバー）は対等な関係を原則とし、会員から選出された理事会、全体ミーティングによって自主運営されています。

■賛助会員を募集しています！

現在、ほっとスペース八王子は障害者総合支援法による給付費と東京都、八王子市からの補助金で運営されています。給付費は一日一日の利用者の数によって決められ、一定の額ではなく、また補助金も次第に予算削減となりつつあります。ほっとスペース八王子が今後も運営できるように、一人でも多くの方の賛助会への参加をよろしくお願申し上げます。

■ボランティアさんを募集中！

ほっとスペース八王子では、ボランティアの方を募集しています。これから定年を迎える経験豊富な方、会員みんなの話を聞いてくださる主婦の方、一緒に運動に参加して下さる学生の方…様々な方のご協力をお待ちしております。

■ほっとスペース八王子（月～金 10時30分～17時）

住所 八王子市八幡町 13-2 ぶくしまやビル2階
TEL 042-628-2319
E-mail CXB01672@nifty.ne.jp
URL <http://hotpace802.world.coocan.jp/>

☆賛助会費・ご寄付は…

郵便振替 00180-7-6246 へお願致します。



～「精神障害者」共同作業所～

ほっとスペース八王子

—入会のご案内—

自主性・自立心・主体性尊重！
仲間づくり、団結心を育みます

■「精神病患者」のための空間

ほっとスペース八王子はみんなのために開かれた場所です。一人で悩んでいるあなた、誰かと話したいあなた、何かをしたいと思っているあなた、自分探しをしているあなた、お気軽にお越しください。（本人・家族・知人・友人の見学も大歓迎です！見学の際は、事前にご連絡ください）



■「精神病患者」解放運動

ほっとスペース八王子は「精神病患者」差別に反対し、「精神病患者」自らを解放、ともに地域で生きるための運動に取り組んでいます。

現在は特に「精神保健福祉法」改悪に反対しています。私達の生きる権利を奪う様々な治安法の反対運動に力を入れて取り組んでいます。私達は積極的に外に出ていき、様々な人々に「精神病患者」の現状を訴えています。

■みんなで楽しくプログラム

月曜日から金曜日の13時～15時と15時～17時、2時間ずつプログラムを実施しています。

内容としては、ビデオ・音楽鑑賞会、全体ミーティング、学習会、夕食会、スポーツの会、英会話、パソコン教室、エレクトーン教室、カラオケ…など様々なプログラムを実施しております。



■その他の取り組み

日常のプログラムと「障害者総合支援法」撤廃行動の他にも、様々なレクリエーション・イベントを行っています。

- 英会話教室…ネイティブのボランティアの方に講師をお願いして、分かりやすく、楽しい教室を行っています。
- 誕生日会…一月に一回、誕生月のメンバーをお祝いします。手作りでケーキを作ります。
- 日帰り旅行…電車やバスを使って、仲間が輪番で日帰り旅行を企画しています。一泊旅行が苦手な人も参加できると好評です。
- 海外研修旅行…宿泊が一人での海外旅行は難しくても、みんなで助け合うことで可能になります。韓国へは9回研修旅行に行きました。2017年にはフィリピンに行きます。

（その他にも、夏キャンプ・望年会・カウントダウンパーティー・餅つき大会など、いろいろな行事をみんなの手で行っています）



原稿募集

当誌「ほっと」では、「じよつじ」(注1)原稿を募集しています。日頃思っていること、日常生活の「コマ」、愚痴や不満、何気なく思いついたこと、政治への不満や不信感や怒り、といったことなどや、小説、散文、詩、短歌、俳句、川柳狂歌、都逸甚句、長歌旋頭歌、(注2) 絵画イラスト(画像)、詰将棋、数学パズル、小咄などなど：どんなことでもとどしどしお寄せ下さい。基本的にどんな原稿でも掲載しますが、1…差別、犯罪、暴力的な表現または助長教唆するような表現。2…「極度に」性的もしくは劣情を催すよ

うな表現。3…その他編集部が掲載に不相当としたもの(不掲載原稿については、投稿者が判っているぶんについては不掲載にした理由を投稿者に告知するものとします)。についてはポツにします。ご了承ください。併せて、企画や特集してほしいことなども募集しています。編集部としては、できるだけお応えしたいかと思えます。まずは1面のアドレスにメールください。

注2…多くの人が知る通り、俳句、川柳は五七五、短歌、狂歌は五七五七七です。そして、長歌は五七を一節として、二節以上、最後に七七、旋頭歌は五七七、五七七です。都逸は七五調で別名ジャパニーズラップ。甚句は七七七五を一節として一節以上の歌。



最後は最高棟の入っている合同庁舎から…また見て下さい。だって、テラフォーマーズの画像はアレですから…

次号予告

次号158号の特集は…第7回(第34回)ほっとスペース八王子総会になります。回数は、法内移行(障害者総合支援法)後の、カッコ内は通算の総会回数です。思い出すと、S先生が理事に選出された2014年以来、臨時総会は行われていません。今年、もしかしたら久々の臨時総会あるかもしれません。他の記事として、元会員島村勇一さんの御寄稿、これは数回に分けて連載の予定です。他の記事は、「書こう会」から、日々の徒然なこと、その他いろいろほっとスペース八王子の行事などあれば、利用者みなさんに書いていただく予定です。原稿募集の記事にて書ききれなかったのですが、医療観察法、精神保健福祉法、それから「津久井やまゆり園事件」関連の原稿は大歓迎です。御寄稿頂ければすぐにでも掲載します。最近懇意にいただいている「グループホーム フリーバード」からも、Twitterの転載許可をいただいております。随時掲載していく予定です。編集部孫悟麺も、書きたい記事が大量にあるのですが、なかなか執筆する時間がないです。書いたら書いたで、誌面をある程度占領してしまうし。それでも誌面が上手く埋まらないときは、16頁に減らすか、久しぶりに「イメージ遊び」のストックから掲載しようかと思えます。あ、もしかしたら(書ければの話ですが)5月3日の憲法記念日にかこつけて、日本国憲法(あるいは他国との憲法比較など)も載せるかもしれません。(編集部)

編集後記

▼毎度おなじみの、「ほっと」です。今号で157号になりました。ご愛読、ありがとうございます。

▼よく、「文章は書き出しが肝心」と言いますが、自分はどうにも、あまり気の利いた文章の書き出しが上手くありません。読み手を惹きつける書き出し、内容に期待を持たせる書き出し、そんな文章が書ければ…と思ったらそんなことができれば作家になれるですね。ありがとうございました。

▼3月24日(金)、参議院会館で緊急集会が行われました。精神保健福祉法改正(改悪)反対についてです。最大の改正点は、措置入院に関することです。入退院時の警察官憲の介入です。特に、退院後の地域生活を支援すると称して、警察が事実上監視することになります。これは、断固として反対です。

▼ちよつときな臭くなってきた世界情勢については、ヘッドレターにて書いておきます。次回の「ほっと」158号は7月中旬発行予定。

(編集部)